



Run&ishin



表紙作品

- 作 者：ますざわ たいら増澤 平 (林檎の里)
- タイトル：ひまわり
- 画 材：絵画 マジック
- サ イ ズ：厚紙A4サイズ



よこがお

表紙画作者紹介

増澤 平さん

ひまわりの種を植えました。夏に咲くのが楽しみです。草取り頑張ります。

皆さん、令和4年度の採用はいかがでしたか。

“目標通りの人数を採用できました”という事業所さんもあれば、“採用0人でした”という事業所さんもあるのではないのでしょうか。

そのような中、6名の採用に成功した南信支部「阿南学園」施設長の熊谷さんにこの4年間の奮闘をインタビューしました。

START!

施設長就任

現実は
厳しい・・・！

2019年4月、熊谷施設長就任。
求人活動開始。人材不足とは思っていましたが、まったく応募なし・・・。
「厳しさ」実感。
どう動けば正解かわからない・・・。

現状把握

分からない
事ばかり・・・

何が原因か把握しました。
山間地だから・・・？（環境）
お給料はどう・・・？（待遇）
福祉を志す方はいずこに？

環境？

待遇？

設備？



採用活動 見直し

活動開始！！

\\ チャレンジ1 //

採用は人と人との結びつきだ！
知り合いに紹介してもらおう！

→もともと人が
いないのか・・・

これも
ダメ...

反応なし...



GOAL!!

やりました



様々な努力の甲斐あってか、6名の6名も採用できたことは夢のようです。せて前に進んでいきたいです。

地域のニーズに沿った福祉サービス一歩ずつ理解を深め、専門性を学び、ように育ててくれることが願いです。

\\ チャレンジ2 //

学校を訪問！
直接お願いしました！

→面接には誰も
来ませんでした・・・





労働条件、 変えました

オールスタッフで利用者さん支援!

職員の採用は事業所ごとではなく法人全体で実施し、支援員としての兼務をお願いしています。

調理職員や事務職員も、数時間から半日程度支援の現場に入ってもらうようにしました。職域を越え、職員が利用者さんの生活に関わって頂くことで立場の違いから見えること、分かること、感じることもあるはず。誰の為にもきっと良い!

ほっとできる関係性も期待して。



23年
4月

た!!採用6名



の職員を採用することができました。
。新人職員も含め全員で力を合わ

の提供をする中で新人さんたちが
福祉のやりがいや楽しさを感じる

見直し ました!

若手の職員が希望を持って働けるよう、 基本給をアップ!

基本的に60歳以下の方を正規職員として採用し、子育て中の方への配慮と希望により、契約職員として働くこともできるようにしました。

働き方を
選べます!

状況変化

2021年12月、 新天地に引っ越し!

同じ阿南町の現在の地に移転し、新たなスタートを切りました。ヒノキ造りの良い香り、Wi-Fi設備、働きやすさを考え、出来る限り設備を整えました。

環境・設備
変化!



チャレンジ3



やっぱり
ダメ...

都合で退職する人には、
後任を紹介してもらう!

→無理があります...





わたしのチャレンジ

いろいろなことに
チャレンジしている
りようしゃ
利用者さんをご紹介します!

えぬ じぎょうしょ み えむ さい ちゃれんじ
N事業所でやりたいことを見つけたMさん (39歳) のチャレンジです。

えむ ちい ころ ころ こ じ か みみず もじ
Mさんは、小さい頃からよく転ぶ子でした。字を書いてもミミズがはったような文字
になってしまいます。お茶もうまく注げません。

えむ さい とき しんだんめい せきついしょうのうへんせいしょう げんいん なお かた
そんなMさんに20歳の時に診断名がつけました。脊椎小脳変性症は、原因や直し方の
わからない難病です。

しょうじょう ふくすう きんにく ばらんす うご えむ
症状として、複数の筋肉をバランスよく動かすことができなくなります。Mさんは、
いつも手足が震えていて、何かしようとする時にもっと大きく震えてしまいます。



チャレンジ1

一瞬でも立ちたい!

しょうじょう すす くるま すわ まいにち つづ ないそう た
症状が進んで、車いすに座っている毎日が続いていましたが、内臓のためにも立
てるようになりたいと、装着型サイボーグをつけてみることにしました。でもこの
装置はとても重く、介助してくれる人に大きな負担がかかりました。

かいじょ ひと ふたん たいそう はじ
そこで、介助してくれる人に負担をかけないようにと、体操を始めました。

けっきょく そうち しょうじょう あ しょう
結局、装置は症状には合わず、使用はできませんでした。

じぶん いっしゅん た かいじょ ひと らく
でも、自分が一瞬でも立つことができたなら、介助してくれる人が楽になるって
わかりました。



くるま かいじょ かあ
車いす介助をしてくれるお母さ
ん。私が立つことが出来たら、抱き
かかえなくて介助してもらえます。
お母さんのためにも、介助してく
れる人のためにも“一瞬でも立ちた
い!!”を目標に毎日体を動かす努力
をしています。



チャレンジ2

できることを増やしたい!!

事業所では、午前は入浴、午後は体操をしてのんびりするだけの生活が続いていました。
何か作業をしても、力が入りすぎてしまってきれいにできない・・・。

そんなある日、豆乳の中に手を入れて行う染物の作業に挑戦してみました。

「これはできる。これは楽しい。手が痛くてもやりたい!」と思いました。

型にはまっていない作業は、手が震えてしまう私にもできました。



下処理の豆乳ジャブジャブをした作品です。



絞り染めの輪ゴムがけをした作品です。

自分でできる作業があるか、アドバイスをもらいながらトライしています。
今では、できる作業が増えました。自分でできることが増えて本当に素晴らしい!

私は、この病気を受け入れたわけじゃないし、受け入れたくもないです。

お母さんに「気を付けて」と言われるのが嫌です。危なくないように、痛くないようにできることなんかないですから、「気を付けて」が「やめて」に聞こえてしまいます。

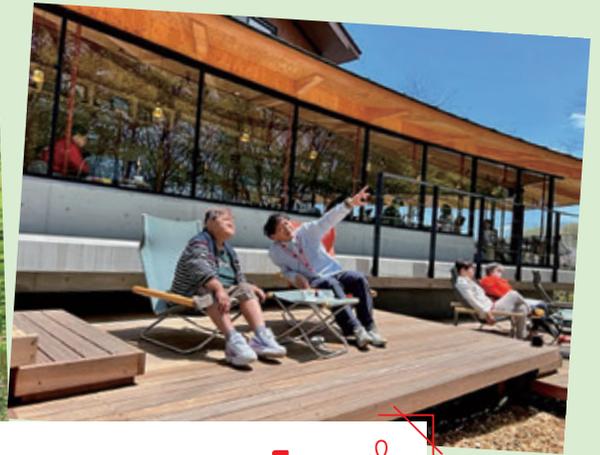
今は、「できること」「やりたいこと」を見つけてやっています。お母さんにそばで見守っていてほしいです。



お母さんから

今より良くなるなんてない病気なのに、ひと頃よりずっと良くなっている。それは、本人の努力で、凄いことだと思う。

これからも、今できていることができなくなることがあるでしょうが、その時なりに工夫して頑張っていてほしいです。



Karuizawa Commongrounds

2023年3月1日に浅間学園横にオープンした「軽井沢コモングラウンズ」という複合施設。森の中には書店をはじめ、カフェ、コワーキングスペースなどが点在する複合施設です。

豊かな文化、交流と賑わいを育む地域のコミュニティハブとして、新しい働き方と多様な人材の交流を育むワークプレイスとして、そして遊びと学びを通じて自分の好きを見つけ、未来を担う力を育む学び舎として、進化していく施設を紹介します。



～あそこに行けば誰かと出会える～



本や新しい発見に繋がる場として、ふらっときていただきたい。

どんな施設？

地域における日常的な「働く・学ぶ・遊ぶ・商う・住まう」という具体的な基盤/場所をめざしています。

現在の稼働状況は？

おかげ様で、地元の方を中心に書店やカフェ・ワークスペースをご利用いただき、毎日来られる方もいらっしゃいます。

稼働する中で
見えてきた多様性とは？

小さなお子様から年長者の方、海外の方など、色々な方がお越しになり、少しずつ交流の場に近づきつつあるかも



未完成の部分は、ご利用者様・関係者の方と一緒に創っていきたい

軽井沢の自然の匂いの中でその空間を体感し、すべての人々を対象とした生活提案を行う。中には、書店以外にも立ち食い蕎麦屋、ワイン専門店、インターナショナルプリスクール等あります。まさに利用者の想いで変化する施設。是非、お出かけしてみたいはいかが？

Karuizawa Commongrounds

長野県北佐久郡軽井沢町長倉鳥井原1690-1



長野県知的障がい福祉協会会長 宮下 智（明星学園）

【心とは裏腹な身体 その①】

行動障がいを呈する方々を表現するのに、「一番困っているのは実は行動障がいを呈している本人である」という言葉があります。もちろん、それは、行動障がいを呈しているわけですから、「一番困っているのは、その対応に当たらなくてはならない家族や支援者である」という常識的な答えに対するアンチテーゼとして存在しているのですが、例えば、何回も説明される聴覚的情報提供（いわゆる言葉）だけでは先の見通しを持つことができず、結果として暴れてしまっているという場合には、＜暴れて回りを困らせている人＞という前に、＜見通しが持てなくて困っている人＞が浮かび上がり、確かに一番困っている人は当人ということになります。

また、心情的には「実は物を壊したくないと思っているのに壊してしまう」とか「人をケガさせたくないと思っているのに殴ってしまう」というような「自分の思い通りに動かない身体」を想定すれば、心とは反対に動く身体を持っているわけで、確かに一番困っているのは当人でしょう。

以前、こんなことがありました。

ホームセンターで、歩き回っているYさんに会いました。一人だけで来ているはずがないので「お母さんはいっしょ？」と尋ねると彼は店内に響き渡るほどの大声で「だめ～」「あとで～」「うるさい～」と叫び始めます。しかし、彼は私の方をチラチラ振り返りながら歩き始め、そのまま着いて行けば、そこにお母さんはちゃんとして、彼は口では「だめ～」と言いながら、母のところまで私を案内していたのです。これは「しゃべっていること」と「実際の行動」との不一致を私たちに教えてくれています。

また、昔々の話になりますがこんなこともありました。

事業所の行事の終了の後、Jさんはお母さんの背中を「帰れ！」かというようにグイグイ押します。多くの家族の方々が明日も続く行事のために事業所内に宿泊になっています。Jさんは母親思いのやさしい方で、お母さんのことが嫌いであるはずないので、背中を押す姿はとても不可解でした。そこで＜家＞と＜事業所＞の写真カードを持参して、混乱の中、「お母さんにはどう

してもらいたいの？」と聞けば、＜事業所＞のカードを選択しながら、お母さんの背中を押し続けるのです。これは「見えない形として存在する心、あるいは感情」と「見える形として出現する行動」との不一致を私たちに確認させます。

この不一致さは、確かに本人を困らせ、「一番困っている人」としての行動障がい者の姿を浮かび上がらせます。

人は「話す言葉」や「見える行動」で相手の考えていること、感じていることを判断の根拠としているので、多くの方々は「伝わらない思い」を抱えながら日々を過ごしていくことになるのでしょうか。

「だめ～」「こら～」と言いながら、母親のところへ案内していくYさんの本当の気持ち、「帰って欲しくない」と思っているのに「母の背中をグイグイ押ししてしまう」Jさんの本当の気持ちは、言葉や行動の陰に隠れて伝わらないまま、彼らの心の中に沈殿していくのでしょうか。

私たち支援者は「心と裏腹に動く身体」の存在を強く知っていなければなりません。

アルコール依存の方は、本当に飲みたくて飲んでいるのか？飲むのを止めたいと思っている心とは裏腹に、身体は目の前に置かれたアルコールを気がついたら飲んでしまっていたということなのではないのか？

Kさんは、出勤した夜勤者Aさんに向かって「かえれ～」と叫びます。そして「夜勤者はBさんです～」と出勤した職員とは別の職員の名前を叫びます。常識的な理解方法では、KさんはA職員さんのことは嫌いでB職員さんのことが好きです、だと思えますが、私たちの支援は、こうなります。「Kさん、Aさんのこと大好きなんだよね。Aさん、いつでもKさんのこと一所懸命考えて応援してくれているものね。でも大好きって伝えようとする、嫌われたらどうしようという気持ちが、そしてどうせ嫌われると決まっているという気持ちが同時に湧き上がってきて、反対のことを言ってしまうんだよね。Kさんの口、困ったものだね」「自信を持って大好きって伝えるのにはどうしたらいいかなあ？いっしょに考えよう」こうして支援が動き始めます。

【つづく】

障がいのある・ないに関わらず、私たちのコミュニケーションツールの一つに言語的コミュニケーションがあります。しかし、相手に言葉だけではうまく伝わらないことってありませんか? 伝わらない場合、態度や表情、色々な行動で伝えようと思います。福祉現場で働く私たちの日常で、発信された言葉の本当の意味を知った時に感動することってありませんか? その感動の一コマをお伝えします。

事業所で“絵を描く会”を開催しました。テーマは「通所途中で見るもの」です。

W事業所を利用しているRさんは、絵を描くことが大好きです。そんな彼の作品には“仮面ライダー”が描かれていました。

職員の視点では、乗り物や建物、草花などをイメージしていました。「テーマがうまく伝わっていなかったのかな・・・」職員で首をかしげました。

そこで、Rさんの通所時歩いてくる様子を見守っていたら、立ち止まってスマホの画面を見ている。何を見ているのでしょうか。

お母さんに話をお聞きしたところ、Rさんは、小さい頃から歩いたり乗り物で移動する時は、自分の頭に中に大好きなヒーローたちが登場する物語を繰り広げ、自分のイメージした世界に没頭して歩いていたそうです。スマホを使うようになってからは、映像を見てイメージを広げているのだそうです。

「通所途中で見るもの」・・・私たちの考えは、それは確かに風景となるのですが、Rさんが通所途中で見ていたものは、風景ではなく、ずばりスマホだったのです。

ちなみに、ヒーローを演じる俳優や声優になること、ヒーローになるための修業に出るといった夢を持ち続けているRさん。10年前に1度オーディションを受けたことがあります。自分の望む結果にはならなかったけれど、「また挑戦したい。夢をあきらめない。」と話してくれました。

夢に向かって頑張ってほしいです。今は大好きな絵を書いて皆さんに見てもらえることに喜びを感じているRさんです。



長野県知的障がい福祉協会・長野県社会福祉施設利用者互助会からのお知らせ

同時開催

2023年 長野県知的障がい福祉大会

2023年 関東地区知的障害関係施設種別代表者会議 長野大会

「新しい地平線を行く ～支援は、感動だ!～」

<講演会>

令和5年8月3日(木) 13:30～

「生きにくさはどこから来るのか」

講師: 奥田 知志 氏 (NPO法人 抱樸)

<大会会場> メトロポリタン長野

<分科会>

令和5年8月4日(金)

各分科会 9:00～12:00

詳しくは事業所、または協会事務局へお問い合わせください。

【協会事務局:026-225-0704】



発行者 長野県知的障がい福祉協会 広報委員会

〒380-0936 長野市大字中御所字岡田98-1

Tel:026-225-0704 Fax:026-225-0714

URL:http://id-nagano.or.jp/

長野保健福祉事務所庁舎内

E-mail:na-chifuku@deluxe.ocn.ne.jp

発行日 令和5年6月20日 印刷所 たけい印刷

広報誌「RUN&らんらん」は長野県知的障がい福祉協会のホームページからも閲覧できます。

